2025

# 美術準備室

つくる・みる・感じとる

第26号

光村図書



特集1
## 令和8年度版高等学校『美術1』のご案内

特集2
## 中学校 新版教科書 Q&A

アトリエ訪問
画家
## 杉戸洋

アートが生まれるとき
## アロイーズ・コルバス

この1点
## 「ブルー・ヌードⅣ」松任谷正隆

内容解説資料

本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

アトリエ訪問

第26回

# 杉戸洋

画家

杉戸洋が描くのは、空や家、果物、木などの
身近なモチーフだ。それらを独自の視点で再解釈し、
具象と抽象を行き来するかのような、
軽やかなタッチで描いた作品は多くの人々を魅了している。
作品のアイデアはどこから生まれてくるのだろうか。
名古屋のアトリエに伺った。

撮影 永野雅子





上／机の前に置かれたソファ。
ここから壁の作品を見渡すことができる。
左／机は定期的につくり直している。今回は正方形にし、
立ちながらでも描ける高さに調整したところがポイントだ。

# 「絵を描くことは、やっぱり楽しい。」

**名古屋市で生まれた杉戸さんは、なじみのあるこの地に3軒のアトリエを構えている。市内の工場が立ち並ぶ一角に、工場を改築したというアトリエは建っていた。扉を開けると、鮮やかな色彩が目に飛び込んできた。**

**――入った瞬間、壁一面に掛けられたたくさんのキャンヴァスに圧倒されました。**

**杉戸**　実際はここに飾ってあるよりも100倍の作品があります（笑）。レコードショップで、山積みにされたレコードの中からお目当てのものを漁（あさ）るような感覚で、定期的にいくつかランダムに選んで飾っておく。そうすると忘れていたものとかが見つかって、新たに制作のヒントを得られたりするんです。いくつかアトリエを構えていますが、ここがいちばん、自分の頭の中に近いかな。

今はこんな感じですが、年度末の大掃除では全て取り払うんですよ。目の前にあるよりも片づけたほうが、絵が見えてくることもある。絵を見るというのは、一生懸命その絵を見るのではなく、ずっとそこにあった絵を当たり前のように眺めていて、片づけられたときにはじめて、「あ、寂しい」と思う。そういう見方もあるのかなって思います。

本当はこのアトリエを、絵を描く場所ではなくて、見るための場所にしたい。ソファに座って、携帯電話の電源も切って、ぼーっとコーヒーを飲みながら、ただただ自分のことだけを考えて、作品と向き合えるようなゆとりのある時間が欲しくて、つくったアトリエですから。

**――この大きな机で制作するのですか。**

**杉戸**　立って描くことが多いですね。いつもソワソワ歩き回っています。勉強机、食卓、こたつの低い机で描くのって、それぞれ感覚や意識が違うじゃないですか。低くなればなるほどリラックスできる気がします。

この机は手づくりなんですよ。変なこだわりだけど、1、2cmの高さの差は感覚的に違うんですよね。絵もそういうところが気になっちゃって。モチーフの位置や構図があと1cm右なのか、左なのかで受ける印象が変わる。絵の中だけではなく、生活空間でも常に考えています。

あとは制作時に使う道具類も、僕にとっては重要です。例えば紙。お気に入りのタイプライター紙があるんだけど、製造中止になってしまって……。鉛筆も、キャンヴァスを張るための釘も、好きなものが次々と廃盤になってしまうので、必死に探して一生分買いました。小さなことだけど、ちょっと気を遣って、自分の感覚に近いものを見つけることは大事だと思います。

**――大きなイーゼル（表紙参照）も印象的ですね。**

**杉戸**　かっこいいでしょう。このイーゼルを使って描くと、まるでレンブラントになった気分になれます（笑）。制作でも使いますが、作品を立て掛けておくのにも使用しています。このアトリエの壁は、パソコンでいうとデスクトップ画面のようなイメージ。イーゼルに作品を置くと、自然とその作品に目がいき、周りが見えなくなって集中できる。デスクトップ画面から一つ選んでクリックするのと同じ状態です。カメラでいうと、広角レンズに近いかな。自分が見たいものが中心に大きく存在して、その他がぼけているようなイメージを頭の中につくるために、イーゼルは使います。もしかすると、絵筆を動かしている時間よりも、ちょこまかと自分の作品を動かしている時間のほうが制作に近いのかも。

**――制作時はどのようなことを意識しているのですか。**

**杉戸**　絵を描くという意識をなるべくもたないようにしています。絵は「絵を描くぞ」と意気込めば意気込むほど、汚くなってしまう気がして。僕が目ざしているのは、「トイレの落書きの名作」。電話横のメモ帳とか、トイレの落書きとか、意識が絵を描くことに向いていない線や色に魅力を感じます。理想は、なるべく手数を減らして、10分でちゃちゃっとできちゃったような絵が描きたいんです。例えば、これ（何の変哲もない茶封筒を指して）が自分の作品だったらいいのにって思います。だけどこれだけでは、僕の作品だと言えない。そう言うために、どのように自分らしさを加えていくかをいつも試行錯誤しています。僕の作品を観た人から、「簡単に描けていいですね」と言われると嬉しいです（笑）。

今はスマートフォンやAIがいろいろやってくれる時代だけど、絵はそれではいけないと思います。過程が大事なんです。作品は誰に見せるためでもなく、結局は自分のためにあるものですから。地味なことだけどやめられないことですよね。時代がどんなに変わっていっても、やっぱり絵を描くことは楽しいです。



ドローイングではトレーシングペーパーを使うことが多い。
「優柔不断なので、重ねながら構図や大きさを考えられるのが便利です」。



アトリエの随所に、果物や野菜を
樹脂でかたどった立体が置かれている。
「例えばリンゴを描きたいときは、まず実物の
リンゴを樹脂でかたどったものをつくり、
それをモチーフにするんです。そうすると、
絵の雰囲気が軽くなる気がして」と杉戸さん。



棚に飾ってある置き物は、15年ほど前に骨董店で見つけてきたもの。木の質感にひかれたという。



**すぎと・ひろし**
1970年愛知県生まれ。92年、愛知県立芸術大学美術学部日本画科卒業。第68回芸術選奨、文部科学大臣賞受賞。主な個展に、「こっぱとあまつぶ」（豊田市美術館・2016年）、「杉戸洋 とんぼと のりしろ」（東京都美術館・2017年）など。現在、東京藝術大学教授。光村図書高等学校『美術』教科書の編集委員。

特集1

令和8年度版高等学校

# 『美術1』のご案内




## 「一生ものの、美術の力を。」

生徒が自分の表現を追求し、生涯にわたって美術に親しめるように。
そのような思いで、教科書を編集しました。
編集委員の先生方とともに、新版教科書の魅力をご紹介します。

イラスト 海道建太、SANDER STUDIO



新企画！

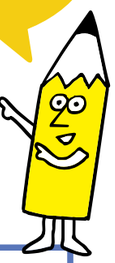
## 「鉛筆BOOK」

新版教科書では、表現の基本となる鉛筆デッサンを特集したページを
新設しました。鉛筆の削り方からデッサンのポイントまで、詳しく解説しています。




P.81「鉛筆BOOK」

鉛筆の全てがわかる!



鉛筆の動画が
全10本

### 動画一覧

①鉛筆の削り方
②鉛筆の持ち方
③1ますごとのグラデーション
④ひと続きのグラデーション
⑤練りゴムの使い方
⑥ぼかし方の基本
⑦リンゴを描く
⑧質感の異なるものを描く
⑨石膏（せっこう）像（ぞう）を描く
⑩手を描く







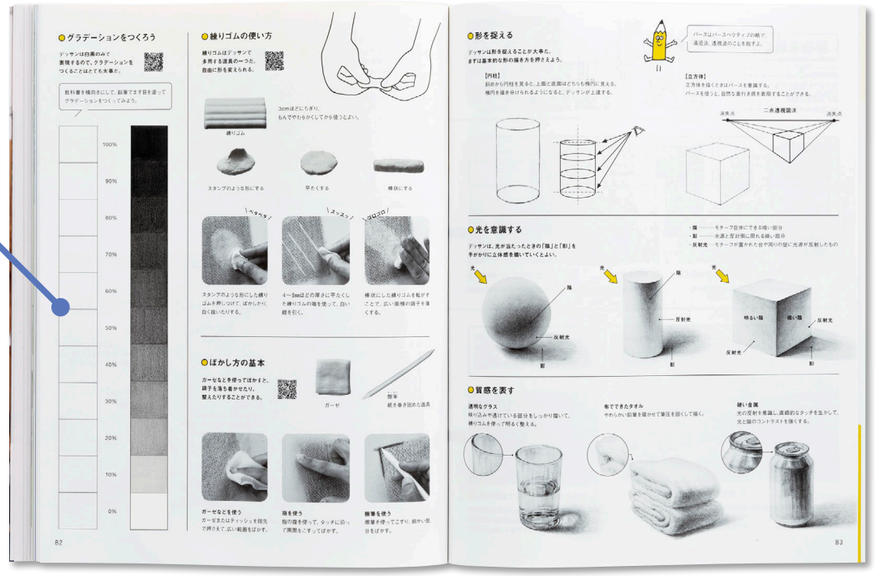



鉛筆の動画は
こちらから。



教科書に
直接
描き込める!

描き込みやすい用紙を採用。教科書に直接塗って、自分でグラデーションをつくることができます。




P.82～83「鉛筆BOOK」

# ＼編集委員が選ぶ“私のイチオシ”ページ／

**教科書編集に携わった先生方に、おすすめのページをご紹介いただきます。**




渡辺晋輔（わたなべしんすけ）
国立西洋美術館学芸課長


美術史の年表は西洋美術、日本美術、デザイン、写真、映像表現と五つの分野に分け、見開きページとしてあるので、それぞれの変遷をわかりやすく見ることができます。教科書に掲載されている作品がどの時代に制作されたものなのか、一目瞭然でしょう。

また有名な作品の図版をちりばめた他、それぞれの時代について簡潔にして要を得た解説を付したので、このページを見るだけでも、おおよその美術史の流れを身につけることができるはずです。さらにイラストによって用語の解説がなされていることや、QRコードを通じて解説動画ともリンクしていることは、この年表の（年表にとどまらない）特徴です。美術史のかなり深いところまで学習することができるのではないでしょうか。

## 1 美術史年表がパワーアップ！

美術史年表を刷新しました。
見開きページに、作品図版と
QRコードを多数掲載。
分野ごとに年表を位置づけたので、
題材と紐（ひも）づけながら
美術史を学ぶことができます。







### 年表は分野ごとに用意しました

- ●西洋美術史 年表（P.42〜45）
- ●日本美術史 年表（P.46〜47）
- ●デザイン史 年表（P.64〜65）
- ●写真史 年表（P.76〜77）
- ●映像表現史 年表（P.78〜79）




P.42〜44「西洋美術史 年表」

### 解説動画でもっと詳しく！

QRコードから、美術史用語や作家、作品の解説動画を視聴できます。

解説動画
「シュルレアリスム」




ダリやマグリットなど、シュルレアリスムを代表する作家や作品について、わかりやすく解説しています。

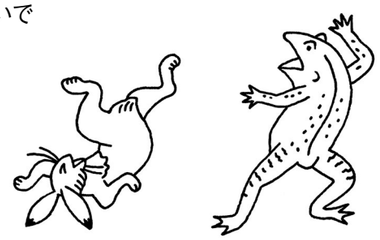
### 題材へのリンク

▶P.16「想像した世界を描く」

題材へのリンクを示しているので、関連づけながら美術史を学ぶことができます。

## 2 質感が味わえる鑑賞題材

「鳥獣人物戯画 甲巻」「松林図屏風」
「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」は、和紙風の用紙に印刷しました。
色合いや質感を、より本物に近い風合いで
鑑賞することができます。



### 和紙のような風合い!

本物に近い風合いを再現するため、越前和紙の風合いをもつ高級用紙に印刷しました。

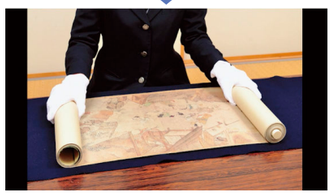


### 解説動画でもっと詳しく!

QRコードから、作品の解説動画を
視聴することができます。

解説動画
「鳥獣人物戯画 甲巻」



「鳥獣人物戯画 甲巻」の構成、絵巻物の鑑賞のしかたなどを詳しく解説しています。

### 鑑賞が深まる解説

より鑑賞を深められるよう、随所に吹き出しでポイントを示しています。

### 原寸大で掲載

豊かな筆使いや多様な墨の表現を、細部までじっくり鑑賞することができます。




P.28〜33「鳥獣人物戯画 甲巻」

日本美術の多くは、当時使われていた和紙に描かれていますので、和紙のような風合いの用紙に印刷することで、ぐっと本物に近い感覚で鑑賞することができます。

例えば、両観音開きで始めから終わりまで大胆に掲載した「鳥獣人物戯画 甲巻」。動物たちの生き生きとした表情や、ユーモアたっぷりに描かれたそのストーリー性を、質感とあわせて高校生にじっくりと味わってほしいなと思います。

また、「松林図屏風」(長谷川等伯)、「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」(歌川広重)も、和紙風の用紙に大きく印刷されています。ぜひ、細部まで鑑賞してみてください。



安村敏信
北斎館館長・
静嘉堂文庫美術館館長

## 3 表現のヒントになる「作家の手法」

高校生の発想・構想のヒントとなるよう、「作家の手法」というページを設けました。画家、デザイナーなど第一線で活躍している作家が、作品をどう発想し制作しているのかを詳しく紹介しています。



**柴田文江（しばたふみえ）**
プロダクトデザイナー・
多摩美術大学教授

編集部が丁寧に取材しているので、実際の制作現場をのぞくような感覚で読むことができます。私のページでは、高校生も見たことがあるようなプロダクトを掲載するようにしました。見たことのあるものが、今勉強しているデザインの延長でつくられていることがわかると、生徒にとって参考になるのではないでしょうか。

今学んでいることが将来どのように役立つのか、わからないまま学習を進める生徒は多いと思います。しかし、「作家の手法」を通してデザイナーのリアルな姿や声を知ることで、デザインという仕事が、社会と密接につながっていることを実感できるのではないでしょうか。生徒には、この教科書で学んだ先に、社会に役立つものがあるということを感じてほしいと思います。




P.61「作家の手法 柴田文江」

### 作家の言葉を掲載

作家がどのように制作に向き合っているのかを、作家自身の言葉から感じ取ることができます。

### 制作の裏側がわかる

制作過程の写真など、普段は見ることができない、作家の制作の裏側を詳しく紹介しています。

### 「作家の手法」掲載作家一覧


●池田 学（いけだまなぶ）（画家）…P.18〜19
●塩田千春（しおたちはる）（美術家）…P.39
●皆川 明（みながわあきら）（テキスタイルデザイナー）…P.57
●柴田文江（しばたふみえ）（プロダクトデザイナー）…P.61
●川村真司（かわむらまさし）（クリエイティブディレクター）…P.75


## 4 切り離し式「混色のヒント&トーン別カラーガイド」

色に関する資料を全14ページと、豊富に用意しています。
巻末の切り離し式資料は、いつでも手元に置いて使うことができます。



**名取和幸（なとりかずゆき）**
色彩学研究者・
一般財団法人日本色彩研究所
常務理事

これは便利ですね。でもそれだけではありません。「混色のヒント」は、絵の具による色づくりをサポートしてくれます。生徒たちはどんな新しい色たちを生み出すのでしょう。楽しみです。さらに反対の色相の色を混ぜたときの複雑な色のニュアンス、黄色に黒を少し混ぜると緑にシフトする不思議さなど、アナログならではの色の体験もどうぞ。

かたや「トーン別カラーガイド」は、PCなどのデジタルツールを使うときの色指定の参考になります。色相とトーンによるこの資料に、絵画や製品の色を並べると色の特徴がわかりますし、縦や横に並ぶ色はまとまりのある色の組み合わせとなっています。手元に置いてどうぞご活用ください。

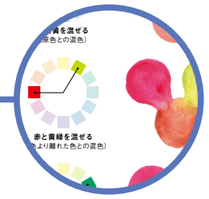



表面

### 絵の具の混色に

色相環を意識しながら、混色を考える際に参考になる資料です。





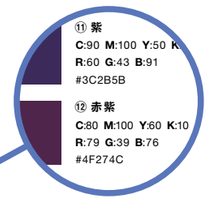


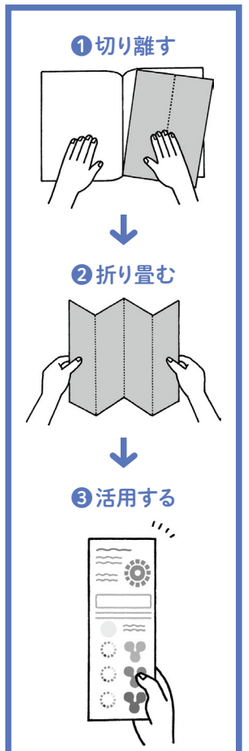


裏面

### デジタルでの制作に

CMYK値、RGB値、HTMLカラーコードを示しました。デジタルで制作するときにご活用ください。



特集2

# 中学校 新版教科書 Q&A

いよいよ使用開始となる新版教科書の特徴と、
授業での活用のしかたについて、Q&A形式でご紹介します。

イラスト 朝野ペコ　撮影 田尾沙織



## Q1. 別冊「資料」はどのように活用すればよいですか。

**A1.** コンパクトに折り畳めるので、制作時に手元に置いて参照できます。充実のQRコンテンツとともにご活用ください。また、中学3年間の資料がまとまっているので、学年が上がってもお使いいただけます。




### 折り畳んで制作時に参照

別冊「資料」は、中綴(とじ)製本になっているため、折り返しやすいという特徴があります。
コンパクトなサイズになるため、用具や材料を広げた机の上でも、スペースをとらずに手元に置いて、参照することができます。






### 多彩なQRコンテンツ

技法動画や色の資料など、表現・鑑賞どちらにも役立つ豊富なQRコンテンツがそろっています。

**技法動画**
**「水彩絵の具のいろいろな描き方」**

中学校3年間で必要な技法を網羅しています。動画は、字幕表示(※)や再生速度を選ぶことができるので、生徒は自分のペースで活用することができます。

※字幕が設定されている動画のみ




### 2·3年から光村図書の教科書を使う生徒たちのために

2·3年の巻末に、別冊「資料」の内容をまとめたページを用意しました。QRコードから技法動画などを視聴できます。

2·3年 P.94～95「学習を支える資料一覧」



# Q2. 題材の構成はどうなっていますか。

**A2.** 「表現」と「鑑賞」の相互の関連を意識し、
一体的に学べる構成になっています。
また、生徒の制作の過程を詳しく紹介している「みんなの工夫」も、
授業でご活用ください。

学習指導要領の資質・能力の三つの柱に対応した3観点の目標を示しました。生徒に伝わりやすい簡潔な文章になっています。

目標
- 形や色彩などが見る人に与える効果を理解し、見通しをもって表す。
- 伝えたい内容について考えたことをもとに主題を生み出し、効果的な表現の構想を練る。
- 自分の考えや見方を深めながら、デザインの構想を練ったり、作品を鑑賞したりする活動に主体的に取り組む。

**鑑賞**

題材の初めに、表現につながる鑑賞作品を掲載しました。また、対話が生まれるように鑑賞が深まる問いを示しています。

**表現** 発想・構想

全ての表現題材に、作品の発想を広げ、構想を練るための具体的な手立てを掲載しました。

**鑑賞**

4ページ構成の題材では、最後に鑑賞を位置づけました。表現活動の後に、作品を鑑賞することで、より学びが深まります。

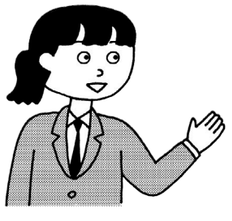


2·3年 P.70〜73「メッセージを伝える」









**POINT**
炎を上げて落ちるチョウ。作者は、なぜこのような表現をしたのだろう。

### 〔共通事項〕を意識した問いかけ

生徒が作品を鑑賞するときに、形や色彩、材料などの〔共通事項〕を意識できるよう、問いかけを「POINT」という吹き出しで示しました。

### 生徒の制作過程が見える「みんなの工夫」

生徒が試行錯誤しながら制作に取り組む様子を丁寧に紹介。発想段階の思いや考えから始まり、作品を完成させるまでの思考の流れを吹き出しで示しました。アイデアスケッチや制作風景の写真も掲載しているので、生徒の制作の参考として、ご活用ください。

### 「作者の言葉」を掲載

作家作品、生徒作品ともに「作者の言葉」を掲載しました。作者の作品に込めた思いや工夫点などがよくわかります。

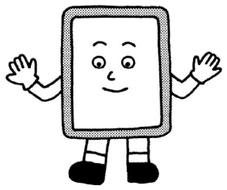
### 生徒が語る！「作者のインタビュー動画」

「みんなの工夫」のQRコードからは、生徒が自身の作品について語る、インタビュー動画を視聴することができます。授業の中で、ぜひご活用ください。



## Q3. 「体感ミュージアム」はどのように活用すればよいですか。

**A3.** 教科書紙面と、QRコンテンツをあわせて活用することで、鑑賞をより深めることができます。



「最後の晩餐」の場合
（2･3年 P.12〜15）

### ❶「音声ナビ」を聞く

鑑賞の授業の導入に使える約１分の音声です。先生が音声を流し、クラス全体で教科書紙面を見ながら聞くとよいでしょう。




「音声ナビ」の画面

### ❷「書き込みツール＆高精細画像」を使う

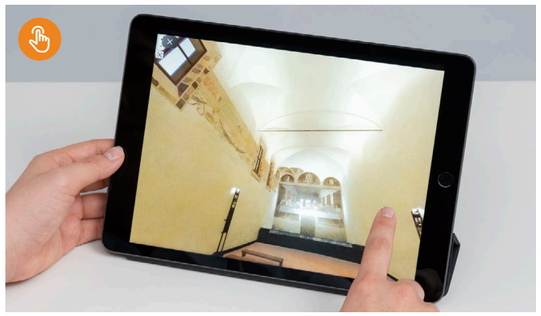
端末に書き込みをしながら、鑑賞を深めるツールです。直線を引いて一点透視図法を確認させたり、描かれている人物のせりふを考えて、吹き出しを書き込ませたり、さまざまな活動ができます。また、書き込んだ画面をキャプチャし、学習支援ツールを使って、クラス全体で共有してもよいでしょう。



「書き込みツール&高精細画像」を操作している様子

### ❸「360°写真」を見る

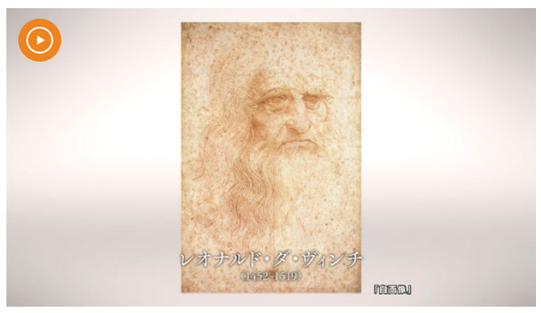
端末の画面をタッチで操作し、さまざまな角度から作品や展示空間を見ることができます。作品の大きさや、壁画が描かれた空間全体を体感できます。



「360°写真」を操作している様子

### ❹「解説動画」で理解を深める

「レオナルド・ダ・ヴィンチ」「ルネサンス」の解説動画を用意しています。作家の生涯や、作品が描かれた時代背景を知ることで、作品への理解がより深まります。先生がモニターに映して一斉に視聴しても、生徒が自分の端末で視聴しても、学校の実態に応じてお使いください。




解説動画「レオナルド・ダ・ヴィンチ」の画面

## Q4. 「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード」を授業でどう扱えばよいでしょうか。

**A4.** 五つのキーワードを手がかりに鑑賞したり、題材と関連づけて指導したりすることができます。

### 「五つのキーワード」で作品を読み解く

「四季」「動物」「不思議」「余白」「構図」の五つのキーワードを手がかりに、日本の絵画の特徴やよさを考えながら観賞することができます。

和紙のような風合いの用紙！




2･3年 P.34〜35「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード 不思議」

### QRコンテンツで理解を深める

紙面のQRコードから、解説動画や作品の高精細画像などを見ることができます。




解説動画
「みかけはこはゐがとんだいい人だ」

### 題材と関連づける

題材と関連づけて指導できるよう、紙面の右上に関連する題材のページを示しました。例えば、歌川国芳（うたがわくによし）の寄せ絵と、アルチンボルドの作品を比較鑑賞するなどしてもよいでしょう。



2･3年 P.20〜21「あれ?どうなっているの」に掲載されている「夏」（ジュゼッペ・アルチンボルド）

# アートが生まれるとき

第4回

## アロイーズ・コルバス

1886〜1964年　スイス生まれ

このコーナーでは、
毎回アール・ブリュット(※)の
作家を一人取り上げ、
滋賀県立美術館ディレクターの
保坂健二朗先生に、
ご紹介いただきます。

※アールブリュットとは、「生(なま)の芸術」を意味するフランス語で、評価や流行とは関係なく、「つくりたい」という衝動から制作された独自の表現を指します。

### 数奇な生涯

アロイーズ・コルバスは、1886年、スイスのローザンヌに6人兄弟の一人として生まれました。小さな頃から物語の筋や登場人物を暗記するほどオペラが好きで、夢は歌手でした。11歳のとき母親が亡くなると、長女のマルグリットが家族の中で力を持つようになります。やがてアロイーズは裁縫の専門学校で学び、働くように。25歳の頃には近所に住む男性と恋に落ちます。しかしマルグリットがこれをよく思わず、二人の関係を引き裂くべく、アロイーズはドイツへと送られてしまったのでした。

そのドイツでアロイーズが働くことになったのは、なんと、第3代ドイツ皇帝が暮らすサンスーシ宮殿。仕事は、宮廷付司祭の子供たちの家庭教師だったのですが、オペラの世界が好きだったアロイーズにとって、宮殿で働くのは楽しかったことでしょう。アロイーズが皇帝の私設チャペルで歌を歌うこともあったとか。

しかし、やがてアロイーズは精神を病んでしまいます。1913年、スイスに帰国。いくつかの仕事をする中、1917年、皇帝に恋文を送ります（実際に会ったことはなかったと言われています)。翌年、統合失調症と診断され、精神科病院に入院。1920年には慢性の患者用の病院に転院し、亡くなるまでそこで暮らしました。

### 作品の特徴

そんなアロイーズが絵を描き始めたのは1919年のこと。最初は鉛筆だけでしたが、翌年には色を使いながら本格的に描くようになりました。宮殿で見た豪華な装飾、彼女が大好きだったオペラ、そして雑誌や書籍などで見たであろう絵画。記憶の中にストックしてあるさまざまなイメージを自由に組み合わせて描くのが、彼女の方法でした。ピンクやオレンジを基調にした画面に描かれているのは、結婚式などロマンティックなシーンがほとんど。女性の髪はボリューム感たっぷり。何より目を引くのは、人物が皆、アーモンド状の形の、水色の目をしていることです。色としては美しいのですが哀しげでもある。それが見る人の胸を打ちます。

画面の形状が多様なこともポイントです。実はこれ(❶)、糸で縫ってあるのです。裁縫を仕事としていたこともあるアロイーズは、自分の描きたい光景にあわせて、画面のフォーマットを自由に変えたのでした。

### 大事だった自発性

最初は理解されず捨てられていたアロイーズの作品ですが、そのうち、関心を持つ医師が現れ、やがて病院の外でも紹介されるように。アール・ブリュットという言葉をつくったジャン・デュビュッフェも、その作品に興味をもち、実際にアロイーズに会いに何度も病院に来たことが知られています。デュビュッフェの考えるアール・ブリュットでは創作の自発性が重要になるのですが、アロイーズには次のような極めて興味深いエピソードがあります。

1960年代に入ると、アロイーズの評価は確固たるものとなり、作品の値段も高くなりました。このことを受けて、1963年10月頃、地元の自治体がアロイーズのために専属の作業療法士をつけたのです。制作をスムーズにさせるための計らいだったのでしょうが、この作業療法士が、アロイーズにこういう絵を描いてはだめだといったり、タイトルや日付、サインをつけろといったりしたそうです。確かにタイトルや日付があったほうが管理上は楽なのですが、その結果どうなったか。アロイーズの作品から、明らかに生気が失われていってしまったのでした。

このエピソードが意味すること。それは、芸術的創作に随伴する者は、制作にスピードや、取り扱いのための常識を求めるのではなく、制作者のやりたいことや自発性を、ただただ見守るべきだということではないでしょうか。ちなみにアロイーズが亡くなるのは1964年4月のこと。考えさせられる事実です。

**保坂 健二朗** ほさか・けんじろう

滋賀県立美術館ディレクター(館長)。1976年茨城県生まれ。慶應義塾大学大学院修士課程修了。東京国立近代美術館主任研究員を経て現職。著書に『アール・ブリュット アート日本』(監修、平凡社)など。滋賀県立美術館では「人間の才能 生みだすことと生きること」展(2022年)を企画。



photo : Claude Bornand　Collection de l'Art Brut, Lausanne　no inv. cab-1393

❶《聖カトリーヌの結婚》　色鉛筆、紙　62×87㎝　制作年不詳

サイズが微妙に違う2枚の紙を縫い合わせて、そこに結婚の光景を描いた作品です。
右の女性の胸元には小さな人物像が見えます。左の人物は、肩章のついた赤い服の上に青いマントをはおっています。二人の間にはパイプオルガンがあり、その右や前には花が広がっています。
オルガンの奏でる祝福の音が、花へと変化していくかのようです。



photo : Déraz Morgane, Atelier de numé risation - Ville de Lausanne　Collection de l'Art Brut, Lausanne (Suisse)　no inv. cab-16300

❷《プランタードのキス》　チョーク、色鉛筆、紙　59.8×42.5㎝　1951〜1960年

女性の頬に、緑の服を着た人物がキスをしています。
二人の頭上には果物(オレンジ)と緑の葉によるリースがあって、そこからリボンが垂れています。
黄色、オレンジ、緑、紫、青と
色数がそれほど多くはないのも特徴。



photo : Olivier Laffely, Atelier de numé risation - Ville de Lausanne　Collection de l'Art Brut, Lausanne (Suisse)　no inv. cab-2144

❸《無題》　色鉛筆、厚紙に印刷した写真　24.5×16㎝　1941〜1951年

アロイーズは既存の写真に直接描くこともありました。
ここでは、いかにもスイスらしい、
急な二つ山の間のくぼみに、水平に横たわる顔が
一つ、その右に、山の斜面にもたれる感じの
もう一つの顔が見えます。



photo : Claudina García, Atelier de numé risation - Ville de Lausanne　Collection de l'Art Brut, Lausanne (Suisse)　no inv. cab-16301

❹《無題》　チョーク、紙　286×47㎝　1962年

五つの画面。中央の画面は中央に女性が、
その右に飾りのついた木(おそらくモミの木)、
左にはクジャクが見えます。
空白が生じるのを恐れて埋め尽くそうとする
アロイーズの特徴がよく現れています。

令和8年度版高等学校『美術1』P.20には、アロイーズの作品が掲載されています。

掲載作品はアール・ブリュット・コレクション蔵(スイス)

この1点




第 26 回

# 「ブルー・ヌードⅣ」

アンリ・マティス

水彩、木炭、紙　103×74㎝　1952年
オルセー美術館蔵（フランス）
ニース市マティス美術館寄託（フランス）

※令和8年度版高等学校『美術1』表紙に掲載



「ブルー・ヌードⅠ」
水彩、紙　106.3×78㎝　1952年
バイエラー財団蔵（スイス）



「ブルー・ヌードⅡ」
水彩、紙　103.8×86㎝　1952年
ポンピドゥーセンター蔵（フランス）



「ブルー・ヌードⅢ」
水彩、紙　112×73.5㎝　1952年
ポンピドゥーセンター蔵（フランス）

## 感性の経時変化

まずはどんな衝動からこの作品をスタートさせたのだろう。エロスか、はたまた食っていくためか。いずれにせよ、なんらかの衝動から芸術家は重い腰を上げるわけだけれど、やがて酷似した4作を作り、その全部を発表したというところがなんとも興味深い。

でもそのヒントは時間にある、と僕は思っている。最初の衝動などというものは追っても逃げていくか、さもなければ知らず知らずのうちに自分の手癖に飲み込まれてしまう。マティスはそれでも最初の衝動を追ったのだろうか。

一説には「ブルー・ヌードⅣ」からこの制作は始まり、やがて他の3作にとりかかり、最後にもう一度Ⅳに手を付けていった、とされる。絵画作品と音楽を一緒くたにするつもりはないが、少なくとも音楽を制作時に1テイク目をOKにする人間はまれだ。いや、これは思い描いていたイメージとは違うかもしれない、と2テイク目を録る。これまた違う、となり、何テイクもやって、結局最初のが一番良かった、なんてことになる。それなら最初から1テイク目にしておけば良かったじゃないか、なんて思われるかもしれないけれど、そこに大きく関わっているのが時間なのだ。もう少し説明するならば、自分の中のバイオリズム、もっと言えば美意識の経時変化といったらいいのか。こいつが本当に厄介なもので、極端な話、毎秒毎秒変わっていくものだから、これだ！ と思って作ったものが次の瞬間、あれ？ となるわけだ。自分のせいじゃない。バイオリズムのせい。それが分かってからは、どんなテイクも我慢をして残しておく、ということを学んだ。

マティスは画家だ。音楽よりも多分ずっと長い時間、自分の作品と向き合っただろう。バイオリズムは大きく揺れ、時には途中で作品自体を捨てたくなることもあっただろう。

翻（ひるがえ）ってこのブルー・ヌード4作。描かれている構図はほぼ同じでも、僕にはまるで違うもののように見える。描きたかった芯というか内面が違うのではないか。そこにはバイオリズムの揺れがちらつく。この揺れこそがこの4作の一番の魅力だ、と僕は思う。

このⅣのどこかグロテスクなポーズが最初の衝動に一番近かったものであり、それを一瞬見失い、迷走しながら他の3作を作ったのではないか、なんて勝手に想像をする。全然違っていたらごめんなさい。でも芸術家の、めまぐるしく変わっていく自分の感性と戦っている姿は、誰にでも当てはまるから面白いのだと思う。

**松任谷 正隆**
まつとうや・まさたか

1951年東京都生まれ。
鍵盤奏者、作曲家、音楽プロデューサー。
1972年より細野晴臣（ほそのはるおみ）、鈴木 茂（すずきしげる）、林 立夫（はやしたつお）と
「キャラメル・ママ」を結成。
その後、アレンジャー、プロデューサーとして、
松任谷由実（まつとうゆみ）、松田聖子（まつだせいこ）、ゆず、
いきものがかりなどのアーティストの作品に携わる。
2024年11月には、松任谷由実が
マティスをイメージした楽曲「小鳥曜日（ことりようび）」を制作、
その編曲を担当した。

# 令和8年度版高等学校「美術1」教科書の内容解説がご覧いただけます。

「今までと比べてどこが変わったの？」と気になる先生方向けに、
ウェブサイトで新版教科書の魅力をわかりやすく紹介しています。ぜひご覧ください。

令和8年度版高等学校
「美術1」

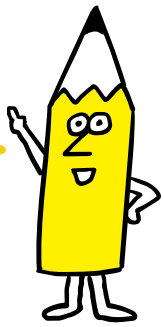
「一生ものの、
美術の力を。」




★ 教科書の特色を絞ったコンパクトな解説
★ QRコンテンツの紹介
★ 豊富なダウンロード資料

- 年間指導計画・評価計画資料
- 教科書解説資料
- 編修趣意書
- 各種サポート資料

ウェブサイトはこちらから
アクセスできます。



※QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

光村図書
ウェブサイト
光村図書 検索

小・中・高等学校
教科書訂正の
お知らせ

光村図書
LINE公式
アカウント
友だち募集中！

美術準備室 No.26
2025(令和7)年4月18日

発行人■吉田直樹
発行所■光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9　電話：03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp
ロゴデザイン■Better Days　デザイン■深山貴世(ZONOCO)
印刷所■光村印刷株式会社

内容解説資料

個人情報の取り扱いに関しては、
弊社「個人情報保護方針」にのっとり、
適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

**教育情報誌に関するお問い合わせ先**
ご意見・ご感想▶koho@mitsumura-tosho.co.jp

光村図書